



ホンジュラス：環境活動家殺害事件の裁判 一歩前進



©Amnesty International

ド・カスティージョ容疑者です。

同容疑者は、カセレスさん殺害実行グループに殺害を指示した疑いが持たれており、現在、拘置されています。他にも黒幕はいると思われますが、拘束されているのは、カスティージョ容疑者だけです。

9月28日、同容疑者に対する今後の司法手続きを検討する審問があり、拘置を継続する判断が出されました。アムネスティの姉妹団体、先住民族支援団体（COPIN）によると、同容疑者の裁判がまもなく始まります。

カセレスさんは、自ら先住民族協議会を立ち上げ、先住民族の生活基盤を奪うダム建設に反対する運動に精力的に取り組んでいました。ダムの関係者と思われる人物から嫌がらせを受けてもひるまなかったカセレスさんですが、2016年3月、自宅にいたところを何者かに襲われ、射殺されました。

事件後も、先住民族協議会の人たちへの嫌がらせや脅迫が続いています。カセレスさんの殺害に関与したすべての人物の1日も早い逮捕と処罰が待たれます。

南スーダン：市民活動家が釈放されました！

国家情報治安局で拘束されていた市民活動家のカンニビル・ヌーンさんが9月22日、釈放されました。

市民グループ「戦略防衛・安全保障審査委員会」の代表を務めるヌーンさんは昨年末、保安部局長に名誉毀損で告訴されました。フェイスブックに掲載した局長宛ての公開書簡の中で、同氏に批判的な見解を述べたためです。

環境活動家ベルタ・カセレスさんの殺害から4年、犯行を指示した容疑で逮捕されたのは、わずか一人です。電力会社のCEO(最高経営責任者)ダビ

今年5月末に逮捕されましたが、訴追されないまま拘束が続いていました。拘禁中は、体調不良にもかかわらず治療を受けられず、家族や弁護人との面会も認められませんでした。

アムネスティが、UAなどでヌーンさんの釈放を求めたことが、釈放に結びつきました。アムネスティが支援していたことを知ったヌーンさんは、「皆さんの取り組みに大変感謝します。すべての関係者に私の感謝の気持ちを伝えてください」と語っていました。

ベネズエラ：不当な投獄の110人に恩赦

ベネズエラ当局は、不当な容疑で有罪判決を受け、収監されていた110人に対し、刑の執行を免除する恩赦を言い渡しました。釈放された人の中には、アムネスティが支援してきた人たちも含まれています。

その一人が、労働者の権利活動家のルベン・ゴンサレスさんです。ゴンサレスさんは、国営の資源開発会社の労働者の権利の支援や国の労働政策を批判するデモなどの活動に参加してきました。しかし、これらの活動を敵視する当局に一昨年11月、逮捕されてしまいます。軍人に暴行を働いたという根も葉もない容疑です。

さらに、不当な司法手続きにより、民間人にもかかわらず軍事法廷で裁かれ、5年9カ月の実刑判決を受けたのです。また、収監中には、腎不全と高血圧の持病があるにもかかわらず、治療を受けられませんでした。

アムネスティは、ゴンサレスさん以外にも、政治学者で活動家のニックメル・エバンサさんや野党議員のジルベル・カーロさんらの釈放を求める活動をしてきました。いずれも、政権や大統領に批判的な言動で法的根拠もなく逮捕・勾留され、投獄されていました。

アムネスティのUAなどによる働きかけが、当局を動かす力になったものと思われます。みなさんのご支援に感謝いたします。

これまでベネズエラは、政府批判や人権侵害の訴えに対して不当な力を使って市民の拘束や投獄を繰り返してきました。アムネスティは、これからも同国の人権状況を注視していきます。

フィリピン：人権擁護とメディアの自由の危機



©Amnesty International

人権擁護家でネットメディア「ラップラー」最高経営責任者（CEO）のマリア・レッサさんと同社の元記者レイ・サントス・ジュニアさんが、サイバー侮辱罪で有罪判決を言い渡されました。今後下される刑期は、最高 6 年になるおそれがあります。

報道関係者がサイバー侮辱罪で有罪判決を受けるのは、二人が初めてです。

ラップラーは、「麻薬撲滅戦争」で多数の死者を出してきたドゥテルテ政権に対し、終始、批判的な論陣を張ってきました。貧民街など社会から見捨てられた数千人の人のびとが、警官の銃撃で命を落とす中、犠牲者の事例を克明に調査し、公表してきました。国の圧力を受けながらも警官の暴力を厳しく追及するレッサさんは、メディアの自由を求める闘士として世界的に名を知られる存在になりました。また、フィリピンだけでなく世界の国々で人権状況の改善に取り組む人たちに、勇気を与えてきました。

レッサさんとサントスさん、さらにラップラーの他の幹部は、脱税、メディアへの外資制限の違反などの容疑でも提訴されています。アムネスティは、司法長官に対してレッサさんらの容疑や判決をすべて取り消すよう、また、報道関係者に対する根拠のない批判、嫌がらせ、脅迫をやめさせるよう求めています。

■支援してください

ツイッターで次の英文とハッシュタグを使って、レッサさんらの有罪判決や容疑の取り消しを求めてください。
Immediately drop all charges against Maria, her colleagues in Rappler, and Rappler itself
ハッシュタグ

#DefendPressFreedomInThePhils

#JournalismIsNotACrime

米国：ウガンダ人牧師 強制送還まぬがれる



©Amnesty International

ウガンダで牧師をしていたスティーブン・テンドウさんは、拷問など深刻な人権侵害を受けるおそれがあったため、一昨年 12 月、米国に逃れ、庇護を求めました。しかし、不法入国者として入管当局に拘束され、その後、「強制送還する」と脅されてきました。

9 月初旬、アムネスティなどの人権団体が、世界中でテンドウさんの送還に抗議し、移民当局にテンドウさんを難民として認定するよう訴えました。この運動が功を奏し、テンドウさんは強制送還を免れ、難民審査を受けられるようになりました。

一方、1 年半にわたる拘束中、持病の糖尿病が悪化して左目の視力を失い、右目も失明の危機にあるのですが、送還停止で目の手術が受けられるようになりました。

今、テンドウさんが求めるのは、収容施設を出ることです。アムネスティは、テンドウさんが難民申請の結果を待つ間、即時無条件での拘束の解除を求めています。テンドウさんの庇護希望の聴聞は、今年末に予定されています。

■支援してください

移民・関税執行局(ICE)に直ちに拘束を解くよう、ICE (@ICEgov) にツイートしてください。次の英文をご利用ください。

I urge you to act quickly to grant humanitarian parole to Pastor Steven while he awaits the decision on his asylum claim.

UA ニュース

発行：アムネスティ・インターナショナル日本

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12-14 晴花ビル 7F

TEL: 03-3518-6777 FAX: 03-3518-6778

E-mail: uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費：3000 円

郵便振替：00120-9-133251

加入者名：公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本